

明日にむかって

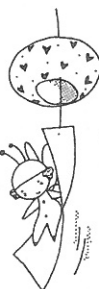
発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園「明日にむかって」編集委員会
発行日/2001年7月14日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

36号

私が両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面を速くは走れない。／私がからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のようにたくさんは知らないよ。／鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。(『私と小鳥と鈴と』金子みすゞ作)／あなたはあなたでいいんだよ、といわれているようで、幸せな気持ちになります。／みんなちがって、みんないい)を、ちがうことであろうと、“まるごと認めて、傷つけない”ということ。／それは愛するということ。／自分の心と一番遠い人に、一番心を飛ばすことでみんなちがって、みんないい)が成り立つ。／大変なことだけども……それができれば、だれもが平等に幸せになれるように思います。(T・R)

「地域共育講座」子どもへのまなざし——2001年6月2日

ありのままの子どもを受けとめて



児童精神科医・佐々木正美先生を講師にお迎えし、「子どもへのまなざし」をテーマに地域共育講座が開かれました。在園児や卒園児の父母、近隣の保育関係者、小学校の先生等々一八〇人もの参加者で陽光保育園のホールはいっぱいになり、熱いまなざしが佐々木先生に注がれました。

私たち聞き手の心に深く響いた先生のお話の一部をご紹介します。

現在、不登校やいじめなど、子どもの心の問題は深刻化しています。親も育児不安など、多くの悩みをかかえています。心の問題をかかえた子どもの多くは、自分のことが好きではないというよりむしろ「嫌い」だと答えます。自分を好きではないということは、他人も好きではなく、自分も他人も大切にできないということなのです。そんなふうにならないためには、どんな「子どもへのまなざし」をもって子育てすればよいのでしょうか。

◎祖父母の愛について

祖父母や親戚、近所の人というのは、親に比べるとはるかに「今の幸せ」を考えて子どもと接することができません。例えば祖父母は、一週間前から楽しみにしていたテレビ番組「水戸黄門」を見ようとして突然孫にチャンネルを奪われたとしても、「いいよ、いいよ」と受け入れてくれます。そして、孫が回したチャンネルが「ガッチャマン」だとすると、祖父母はそれを見ても何かなんとかわかりません。「おまえたち、こんな難しいのがわかるのか」と孫をほめ、孫は得意になります。親はそんなことは役に立たないなどと思ってしまうのですが、祖父母はいっぱいほめてくれます。よいところを認めてくれる、「ありのままの自分」を受け入れてくれるのです。それは、このままの自分でいいのだという安心感を子どもに与え、自信につながります。

欲しがらるるものを無条件で与えたり、せがまれたことをやってあげたり、ほとんど拒否することなく受けとめてあげられるのが、祖父母です。そうやって祖父母に愛され、信じられて育った子どもは、やがて心身ともに成長したとき、老いた祖父母に無条件で手を貸し、優しい気持ちで接するのです。親の言うことは聞かなくても、祖父母の言うことは聞くのです。そんな「今の幸せ」を大切にしてくれる人の手をかりた子育てがとても重要です。

◎待つ気持ち

「早くできなくても、いつかできたらそれでいい。それまで待つよ」「何度でも手を貸し、つきあうよ」というメッセージを子どもに伝えていくことが大切です。これは、十分に信頼しているよという子どもへの愛情をわかりやすく伝えることにもなります。

できるよになる時期は、子ども自身が決めるべきです。そうすることで、自分に対する自信や、自分で決める力が身についていくのです。

◎子どもへのまなざし

育児をするうえで親が喜びと感ずることは二種類あります。ひとつは、子どもに期待できる喜び、もうひとつは、子どもを幸せにする喜びです。期待は、子どもの将来の幸せを考えたことですが、子どもからすると、「現在のあなたに満足していない」というメッセージとして伝わり、条件付きの愛情、

「ありのままの自分」を受け入れてくれるのです。それは、このままの自分でいいのだという安心感を子どもに与え、自信につながります。欲しがらるるものを無条件で与えたり、せがまれたことをやってあげたり、ほとんど拒否することなく受けとめて



大勢の参加者で陽光保育園のホールは超満員に！

親子でいっしょに遊みましょう

(リズム、うた、砂あそび、散歩、赤ちゃん体操など)

陽光保育園では、地域の乳幼児、お母さんを対象に月1回、「親子でいっしょに遊みましょう」の催しを行っています。同時に育児相談にも応じています。お気軽にご参加ください。無料です。

【対象】0歳児～5歳児
【場所】陽光保育園
【時間】午前9時～11時

●2001年度・今後の予定

9月7日(金) 10月23日(火)
11月7日(水) 12月10日(月)
1月15日(火) 2月14日(木)
3月6日(水)

●事前にご連絡のうえ、活動しやすい服装でご参加ください。

☎3956-1068



佐々木正美 (ささき・まさみ) 氏プロフィール

新潟大学医学部卒業後、東京大学で精神医学、米コロンビア大学で児童精神医学を学ぶ。現在は、川崎医療福祉大学教授、横浜市リハビリテーション事業団参与、米ノースカロライナ大学臨床教授。30年も前から、子どもの臨床に携わりながら、子どもや親をとりまく問題を共有するために、保育士や幼稚園の先生たちと勉強会をつづけている。

●参加者の感想から
★自分の子育てを改めて考えさせられるお話でした。じっくり、あせることなく、自分に言い聞かせて子育てをしていきたいと感じました。(母)
★わかりやすく、ためになることばかりで、あっという間の二時間でした。人と人のコミュニケーションの大切さ、両親だけでなく、周りの人の手をかりて子育てすることの大切を認識しました。保育士として、これから子育てをする者として、まず自分人間関係を直し、人を信じることに努力したいと思いました。(保育士)
★いろんな愛で、たくさんの方が信頼しあっているなかで子育てをしていく。本当にそうだと思います。わかっているつもりでも、できない部分があるな—と思ったりしました。(母)

「子どもは、ありのままの自分の自分で信じてもらうことで、はじめて親を信じ、自分を信じ、そして多くの人びとを信じていくことができるのです」という佐々木先生の言葉が強く印象に残りました。
参加されたみなさんからたくさん感想をいただきました。ここに紹介したのはそのごく一部ですが、一様に、「聞いてよかった」「これからの子育てを前向きに考え直していこう」と書かれています。「子どもへのまなざし」、それは、自分自身にも、自分と関わる周囲の人びとにも向けなければならぬ大切なものではないでしょうか。
二時間という短い時間でしたが、子どもを育てるうえで大切なメッセージをたくさん受け取りました。子どもを育てることは、とても幸福であり、楽しいことなのだと思えた講演会でした。(保育士・奥村美幸)
★子育てにおいて環境の力、人間関係が大切だと改めて思いました。そして何よりも親が成長し、精神面が安定することが、みんなの幸せにつながると思えました。(卒園児)
★とてもいい時間になりました。保育士として子どもに「どんな接し方をしたいか」と考えるとき、佐々木先生の愛情のかけ方の種類を忘れずに接していきたいと思いました。(保育士)
★回りの道徳のよさ、子育ての楽しさを学びました。(保育士)
★「夫婦間でのコミュニケーションがとれていて信頼関係が成立していること」が「父親が育児に協力的か」とかよりも母親の育児不安に影響があると聞き、子どもが生まれてからずっと感じてきた何かの答えがやっとわかりました。(母)

●園児募集

3歳児13人/5歳児15人
*お申し込みは区役所福祉事務所まで。



2001年度後援会総会は5月26日に開催。第一部はChie&マーの歌と演奏。卒園児の父・中山茂樹さん(右端)もベースギターで特別出演。大いに盛り上がりしました



2001年度父母の会総会は5月20日に開催。「ひとりひとりの意見をいかに」「子どもたちに夢を与える」「父母が楽しく交流」などの活動方針が決まりました

◎陽光保育園父母の会と後援会の総会が開かれました

◆ごあんない
◆バザーのご協力、ありがとうございました。7月1日(日)今年の夏のバザーも無事終了しました。ご協力いただいた皆様からお礼申し上げます。次回、冬のバザーは、12月2日です。またよろしくお願ひいたします。
◆夏の交流会のお知らせ
陽光保育園後援会主催の夏の交流会は、今年も鶴原(千葉県)の海に行きます。日程 8月4日(土)5日(日)宿泊先 第一うなばら荘
皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください(定員40名)。詳しくは、陽光保育園までお問い合わせください。

ヒトが人間になるとき

その2

仲間との出会い



人間の赤ちゃんは、両親や家族の愛をたっぷり受けながら心地よく育ってくるものです。しだいに両親以外の人と接触する機会が出てくると、その違いを見分けて号泣するようになり、「人見知り」が始まります。「この人が大好き」「この人でなければイヤ」という見分ける能力が、人間らしく育つ社会的な基盤になっていきます。そして新しく保育園に入ると、一週間の経つと、担当保育士や友達を受け入れ、気持ちを通わせてくれるようになります。

入園する年齢によって受け入れ方がそれぞれ異なるでしょうが、社会的な基盤を築く乳幼児期の子どもたちが保育園での新しい仲間との出会いを、どのように受けとめていくかを紹介してみたいと思います。

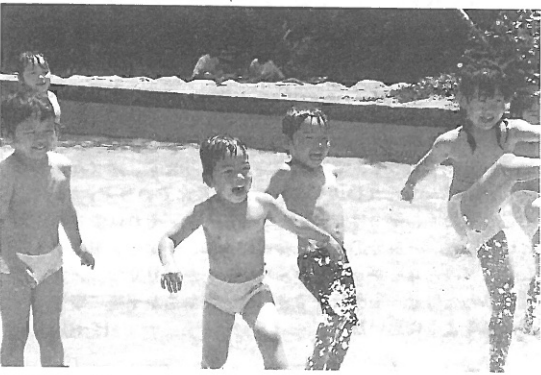
二か月間、親子の戦いはあったけれど……



大丈夫だと思っていた保育園。しかし、入園してから二か月間は毎日泣かれて大変でした。「いつまで泣いているのだろっ」「ごはんはちゃんと食べているか?」、仕事が手につかないほど心配でした。

しかし、保育士さんの連絡ノート「あゆみ」のやりとりで、私から離れた陸が泣かずに遊んだり、ごはんを食べたり、でもお昼寝のときは泣きながらタオルをくわえて眠ったりと陸なりに頑張っているのを知り、ホッとする反面、少し可哀想で淋しい気持ちになりました。

最近では少しずつお友達や保育士さん



5月19日、親子バス遠足で高坂動物公園へ。いっぱい水遊びをして、子どもたちは大喜び



6月7日、葛西臨海公園の海へも行きました

親の不安をよそにいつしか楽しんだ保育園生活

「ママ、ママ、ママ」朝、自転車で乗った陸が私に言う出発の合図です。

陸は言葉が遅く、3歳7か月なのですが、まだカタコトしかしゃべりません。私の言っていることは理解しているのですが、自分のやりたいこと、言いたいことは話さずかまわないので、集団のなかでどう行動に出るのかわからず不安でした。この頃、自分のやりたいことがわかってもらえないときや、止められたりするとパニック状態になってしまふことがあったからです。保育園に行くのが嫌だ!と大騒ぎされるかも……、いやいやそれよりも、保育園でパニックにならずに大迷惑をかけてしまふかも……などと

うことがなりました。聞けば、とも(朋子)ちゃんという大好きな子を見つけた様子。食事のときもお昼寝のときも、ともちゃんの隣をキープ。「ともちゃん」「じゅんすけ」と呼びあう仲(と愛)も深まり、そのことは今では他のクラスにも広まっているようです(相相相愛とならず、俊介の片思いという日も多いようですが)。

朋子ちゃんのおかげで大泣きも一週間で終わり、今では月齢が高い(6月生まれ)ということもあり、率先して悪いことをやって先生を困らせている毎日です(3歳児のとなほ組の部屋へ行き、籠から衣類を取り出して窓から下に落としたのは記憶に新しいイタズラです。被害者となられたとなほさん「モンナサイ」)。

こんな俊介のために、これから頭を下げるのが増えるだろうと覚悟している両親です。よろしくお願ひします。(2歳児・俊介の母 若林あかね)

わずか一週間で相相相愛の仲……?



伝い歩きを始めたころから晴れて入園といつてもそのときは養育院近くにある風の子保育園でした。陽光保育園にはこの春からお世話になり始めたばかりです。六年間風の子に通った姉が卒園したこと、何より陽光保育園は家から近いということが転園の理由です。

入園式の翌日から大泣きの俊介。母の首にしがみつき、離れないことスッポンのごとし。ようやく保育士さんに抱いてもらってもノドがちぎれんばかりの泣き声で大暴れ。ところが五日目くらいから様子が変わり、母のほうへ来ようと保育士さんの腕の中で暴れるとい

いう私の大不安をよそに陸は思ったより自然に新しい生活になじんでいったのです。

一人で最後まで靴をはく、公園でトイレに行く、お昼寝できる、嫌なはずの野菜が食べられるようになる、お友達と手をつないで歩けるようになる、お友達の手助けがあったからこぼれや友達の参観したときのことです。お友達と言葉ではなく、目と目で合図しているようで、うれしそうに手をつないで走り回り、陸が何か出来ないでいると心配そうに見守ってくれているお友達がいっぱい……。そんな雰囲気を感じてか、陸も自分で色々やろうと思いはじめたようです。今までもそう思っていたのかもしれないのですが、親である私が手助けばかりしていたよう反省しています。

毎朝自分から「ばいばい」と言っ てわざと私をとなほ組(3歳児クラス)の部屋から押し出す陸。そんな頑張りている陸に、私は親として育てられている気がします。(3歳児・陸の母 野坂久美子)

温かく迎えてくれた小さな仲間たち



入園式。大地の息吹を感じる歌に感動しながら、ふと優大の顔をのぞくと、あまりの迫力に圧倒された表情。ところが翌日の初登園の日には「お母さん」とすがりつき、涙のお別れを想像していたのに、「じゃーねえ」と実にあっさりしたもので、ちょっと拍子抜けしてしまいました。それから、お迎えに行くとき「えーっ、もう来たの!」などと言っではありませ

なんだかお母さんは淋しいよ……。このとき初めて気がつきました。子どもも成長に親である私がすっかりとり残されてしまったことに。

優大は新しい生活や新しい仲間、保育士さんとの出会いをとても自然に受けとめたようです。人生で初めて経験する「小さな社会」が温かく彼を迎え入れてくれたことに心から感謝しています。慣れないこと、ちょっと苦手なことにもお母さんの励ましを受けて、優大なりにチャレンジすることで、本当にうらやましいくらいたくさんのことを吸収し、普段の生活のなかでも自信



子どもからもう明日への活力

私が板橋勤務となり、陽光保育園に通う息子たちの送り迎えをするようになって一年が経ちました。雨の日、風の日、雪の日と、いままです頑張り続けた母親の苦労が、身に染みてわかるようになってきました。でもその甲斐あってか、ようやく保育士の顔と名前が一致するようになってきました(年齢は別)。また保育園の子どもたちとも触れ合うことができ、最近では「おじさん」と呼ばれ、少しシヨックを受けながらも、「おじさんだよ」と抵抗しています。

さて、わが息子たちはどう言うかと、母親に似たのが一人ともマイペースで、朝の送りは特に時間との戦いです。出かけるときに「長男はトイレ(大)に行き、次男はテーブルでゆっくり朝食を食べている。最後は声を大にして「行くぞ」と叫んで出発となる毎日です。帰りは少し余裕があるので、少し遊んだり、今日の出来事をいちはやく聞いて、また知らぬ母親の前で優越感に浸っています。

最近では、息子が保育園で覚えた餃子を作ってくれ、得意料理となっています。そして「はいどうぞ」と、ビールが出てきたときには、感動で涙が出ました。なんて素晴らしい息子たち。一日の疲れも吹っ飛び、心が癒され、明日への活力となつていきます。

このように、子どもたちから元気をもらい、幸せを感じていますが、子どもに対する親の虐待など、暗いニュースが多く、テレビ等で聞かされた母と二人で「何で?」と悲しくなります。子どもたちの笑顔や元気に応えるためにもまず、私たち(親)が心にゆとりを持っていなければならないと思います。子どもたちからももう元気で、心にゆとりを持ち、笑顔で迎え、一日一日を頑張っていくと思ひます。(2歳児・晴輝と5歳児・満輝の父 佐藤幸治)

「みんないると楽しいんだけど!」



「今日の園は海に行けなくてね」「きょうは○○くんが来たんだよ。よかった」。他の保育園から陽光保育園に転園しては二か月。最初のころは前の園の友達の名前を繰り返していた一勢ですが、最近では園での様子を詳しく伝えてくれるので、私もずいぶんうさぎ組(4歳児クラス)の友達の名前が分かるようになってきました。

先日、自分で体を洗っていたのですをもって行動できる場面が増えてきたように感じます。……私も負けてはいられない!!

保育園の帰り道、自転車で乗り、広告紙で作った背中をつっつきながら、「今日ね」と語り始める話のなかに、今まで私の知らなかった優大の一面を見つけたことがあります。陽光保育園に通い始めてから、そんな楽しみがひとつ増えて、わくわくしながら自転車を飛ばし、お迎えに行く毎日です。それなのに今日も「えーっ、もう来たの!」……もう少し歓迎してよね、お願いだから!!(4歳児・優大の母 吉田喜代美)

が、どうしても背中が洗えず四苦八苦しているのでも、「お泊まり保育のときどうする?」と聞いてみた。「みんなだね、座ってね、背中ジュッシュするんだ」と得意げに答えてくれました。絵本の中にでてきた「人気者」という言葉の意味をパパにきくやいなや「じゃあ、いっちょ人気者だ」といって驚かせたことも……。転園するとき、友達ができるかどうかが一番心配だったので、四月は毎日だれと遊んだか執拗に聞いてしまいましたが、迎えるとき、一人でいる心配もなくなった。でも、今では一勢も含め二ユーフェイスが四人もいるし、保育士さんの笑顔が面倒をみてくれるし、保育士さんもお泊まりをしてくれている様子も分かります。ずいぶん安心しました。先日は、○○ちゃんのお母さんから、「一勢くんにおっぱい触られたワ」と聞いて、またまた!とヒヤッとしましたが、やっと自分のモードになったんだなと嬉しくなりました。帰り道、「きょうは○○くん来たの?」と聞くと、「うん、みんないると楽しいんだけどな」と一勢。うさぎ組の友達はいまやかけがえのない存在なんです。(4歳児・一勢の母 菅原久仁栄)